

「平和の礎」から

PART 1

☆ 沖縄全市町村からの犠牲者の刻銘数

* 4月1日の米軍上陸時

読谷村・・・

北谷町・・・

嘉手納町・・・

* 4月～5月の中部戦線

宜野湾市・・・

浦添市・・・

西原町・・・

* 6月の南部の戦線

糸満市・・・

南風原町・・・

東風平町・・・

☆ 全国都道府県からの犠牲者

* なぜ全国から沖縄に軍隊が集ってきたのか

* 北海道の刻銘が 10784 名で圧倒的に多い

☆ 新平和祈念資料館の展示でわかること

「平和の礎」から

PART II

「平和の礎」は国籍や軍人、非軍人を問わない。敵も味方も、戦争指導者（責任者）も民衆も、同一場所に同じように戦争の犠牲者としてその名を刻んでいます。

☆ 日本軍守備隊の司令官（最高責任者）

牛島 満（うしじま みつる）

（鹿児島県出身）あいうえお順に刻銘

☆ 日本軍高級参謀（作戦の責任者）

長 勇（ちょう いさむ）

(福岡県出身)

☆アメリカ軍上陸司令官

S I M O N B B U C K N E R

(バックナー司令官)

A B C 順に刻銘

☆沖縄の犠牲者は市町村の字別に刻銘

*家族での犠牲者が多い

*名前の分からない刻銘

〇〇の長男 〇〇の妻などの例

☆新平和資料館展示でわかること

軍人と民間人の犠牲者の数と割合など

「平和の礎」から

P A R T I I I

「平和の礎」には沖縄県民の犠牲者は 148272 名 (2000 年 1 月現在) 刻銘されています。市町村別の字別で家族で刻銘されています。

そのため、どのような原因で犠牲になったのか分かりません。

☆学童疎開船 (軍隊の命令で九州や台湾に疎開して、海上で犠牲になった)

*対馬丸 1 4 8 4 名 (1944 年 8 月 22 日)

*第一千早丸 8 8 名 (1945 年 7 月 3 日)

☆ 戦争マラリア

八重山や宮古の犠牲者の大半

軍隊の命令でマラリア (熱病) 地帯に強制移動させられて、犠牲になった。

*石垣市 戦争マラリア犠牲者 2 4 9 6 名 (刻銘 4 3 5 8 名中)

*竹富町 戦争マラリア犠牲者 7 8 6 名 (刻銘 1 1 2 0 名中)

☆新平和祈念資料館の展示で分かること

「摩文仁の丘」の各県の碑文から

摩文仁の丘と米須海岸などに全国都道府県の慰霊碑がたっています。

何の目的で、どういう思いで、この碑を建てたかが碑文に刻まれています。

☆茨城の塔の碑文

<h2>茨城の塔</h2> <p>(糸満市宇摩文仁)</p> <p>茨城県の慰霊碑</p>	<p>碑</p> <p>(碑文)</p> <p>雄魂に捧ぐ</p>	<p>この塔は大太平洋戦争において、本土防衛の防波堤となつて、沖縄の戦いはじめ遠く南方戦線に死闘を重ね、異郷にその尊い生命を国家の栄光の前に捧げた茨城県出身戦没者三万八千余柱の勇魂をこの地に招き、二百万県民が平和の祈りをこめて建立したものである。諸霊の愛国の至情は仰いで範とすべく耿々として、後進を鼓舞することを信ずる。願わくは雄魂永くこの霊地に鎮まり国</p>
---	-----------------------------------	---

☆岩手の塔の碑文

<h2>岩手の塔</h2> <p>(糸満市宇摩文仁)</p> <p>岩手県の慰霊碑</p>	<p>(碑文)</p> <p>大東亜戦争に際し、祖国に殉じられたる郷土出身三万四千八百有余柱のみ霊よ、われら今日あるは諸霊に負うところ多し、諸</p>	<p>霊の愛国の至情を後世に伝え、み霊を慰むるは、われらが責務なりされば、本土防衛最後の戦場となりしここ摩文仁ヶ丘に、われら県民の平和への願いと慰霊の誠をこめて塔を建立す。希くはとこしえにこの霊地に鎮まり給わらんことを</p> <p>(建立年月日) 昭和四十一年十月二十日 へ建立者) 岩手県戦没者慰霊塔建立期成会会長</p>
---	---	---

大東亜戦争、英霊、異国の地、奮闘・・・等々

軍国調、靖国的

我が県出身の兵士の頑張りで今の日本の平和がある
あの戦争の反省の視点がない
沖縄を外地（異国）扱いしている

☆良心的な慰霊碑の碑文

☆近江（滋賀）の塔の碑文

近江の塔

（平成3年に新に建立）

（碑文）

言語に絶する苛烈な沖縄戦は、十数万人にものぼる多数の兵士や沖縄県民の尊い人命を奪い、本県出身多くの兵士も、愛する妻や子・父母の待つなつかしい故郷に再び還ることなく、この沖縄とその近海において一命を祖国に捧げられたこれらの戦没者に対して、慰霊のまことを捧げるため慰霊顕彰会を結成し、県民の浄財を基として昭和三十九年十一月に近江の塔を建立した。

以来二十七年長年の風雨に堪えたこの塔を滋賀県の援助により改修し、戦争の空しさ・悲惨さを次代に正しく伝え、世界恒久

☆京都の塔の碑文

京都の塔

（宜野湾市字嘉数）

京都府の慰霊碑

（碑文）

昭和二十年春沖縄島の戦いに際して、京都府下出身の将兵二五三〇有余の人びとが遠く郷土に想いをはせ、ひたすら祖国の興隆を念じつゝ、ついに砲煙弾雨の中に倒れた。

また多くの沖縄住民も運命を共にされたことは誠に哀惜に耐えない。とくにこの高台附近は主戦場の一部として、その戦闘は最も激烈をきわめた。星霜十九年を経て、いまこの悲しみの地にそれらの人びとの御冥福を祈るため京都府市民によつて「京都の塔」が建立されるにいたった。

再び戦争の悲しみが繰り返されることのないようまた、併せて沖縄と京都とを結ぶ文化と友好の絆がますますかためられるようこの塔に切有な願いをよせるものである。

韓国・朝鮮人の強制連行

☆ 「韓国人慰霊の塔」

碑文を読む

韓国人慰霊の塔

一九四一年太平洋戦争が勃発するや多くの韓国青年達は日本の強制的徴集により、大陸や南洋の各戦線に配置された。この沖縄の地にも徴兵・徴用として動員された一万余名があらゆる艱難を強いられたあげく、あるいは戦死あるいは虐殺されるなど惜しくも犠牲になった。祖国に帰り得ざるこれらの免魂は、波高きこの地の虚空にさまよいながら雨になって降り、風となって吹くであろう。この孤独な霊魂を慰めるべく、われわれは全韓民族の名においてこの塔を建てて謹んで英霊の冥福を祈る。願わくは安らかに眠られよ。

(建立年月日) 一九七五年八月

(建立者)

韓国人慰霊塔建立委員会

☆ 15年戦争による朝鮮人強制連行の歴史

☆ 沖縄における「従軍慰安婦」の実態

☆ 「平和の礎」における朝鮮人の刻銘

韓国 364名 朝鮮人民共和国 82名

合計 446名 (2009年6月23日現在)

1万人余の刻銘空白の意味

☆ 沖縄県平和祈念資料館で朝鮮人強制連行の問題の展示は